

1. 岡山大学の理念, 目的等

1 岡山大学の理念 “高度な知の創成と的確な知の継承”

人類社会を安定的, 持続的に進展させるためには, 常に新たな知識基盤を構築していかなければなりません。岡山大学は, 公的な知の府として, 高度な知の創成(研究)と的確な知の継承(教育と社会還元)を通じて人類社会の発展に貢献します。

2 岡山大学の目的 “人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築”

岡山大学は, 「自然と人間の共生」に関わる, 環境, エネルギー, 食料, 経済, 保健, 安全, 教育等々の困難な諸課題に対し, 既存の知的体系を発展させた新たな発想の展開により問題解決に当たるといふ, 人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築を大学の目的とします。このため, 我が国有数の総合大学の特色を活かし, 既存の学問領域を融合した総合大学院制を基盤にして, 高度な研究とその研究成果に基づく充実した教育を実施します。

3 岡山大学の教育の基本的目標

岡山大学は, 大学が要請される最重要な使命である教育活動を充実させます。これまでの高度な研究活動の成果を基礎として, 学生が主体的に“知の創成”に参画し得る能力を涵養するとともに, 学生同士や教職員との密接な対話や議論を通じて, 個々人が豊かな人間性を醸成できるように支援し, 国内外の幅広い分野において中核的に活躍し得る高い総合的能力と人格を備えた人材の育成を目的とした教育を行います。

【 参 考 】

岡山大学管理学則

(大学の目的)

第10条 本学は, 広く知識を授け深く専門の学芸を教授研究して, 知的, 道徳的及び応用的能力を展開させ, 日本国家及び社会の有為な形成者を育成するとともに, 学術の深奥を究めて, その成果を広く社会に提供することにより, 世界文化の進展に寄与することを目的とする。

岡山大学管理学則

(大学院の目的)

第53条 岡山大学大学院(以下「大学院」という。)は, 学術の理論及び応用を教授研究し, その深奥をきわめ, 又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い, 文化の進展に寄与することを目的とする。

2 大学院のうち, 学術の理論及び応用を教授研究し, 高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことを目的としたものは, 専門職大学院とする。

医学部アドミッションポリシー

教育内容・特色

医学部は、高度な教養、専門性、情報力、行動力および自己実現力を身につけて、未来の医療を担い医学をリードする医療人と医学・保健学研究者を育成します。医学は、人類の健康と福祉に貢献することを使命とします。従って、その育成には、医学に関する知識と技術の修得とともに豊かな人間性の教育が強く求められます。わたしたちは「あなたのそばに先進医療」を原点理念とし、その実現に向けて特色ある教育を行っています（詳細は各学科の「教育内容・特色」を参照ください）。

求める人材

医学部では、未来の医療と医学を支える医療人および医学・保健学研究者にふさわしい人として、各学科・専攻で実施される専門教育の学修に必要な基礎学力と語学力、コミュニケーション能力を有し、医療人および医学・保健学研究者としての知的探究心と高い志を持ち、入学時点で相応した倫理観と豊かな人間性を備えた人を求めています。入学後の学修のため、高等学校において修得していることが望まれる教科は、国語、外国語、地理歴史、公民、数学、理科です（詳細は各学科の「求める人材」を参照ください）。

選抜の基本方針

各学科のアドミッションポリシーを参照ください。

医学部医学科アドミッションポリシー

教育内容・特色

医師・医学研究者の育成には、科学知識と技術の修得とともに豊かな人間性の教育が強く求められます。医学科の使命は、「医の倫理に徹し、科学的思考法と高度の医学的知識を体得し、社会的信頼を得るに足る臨床医並びに医学研究者を養成し、もって人類の健康と福祉に貢献する」ことです。特色ある6年間の医学教育を経て、医学・医療の進歩、社会のニーズに対応して絶えず医療の質の向上に努め、生涯にわたり社会へ貢献できる、世界に通用する医療人を育成します。

求める人材

医学科では、将来の医学・医療の担い手として次のような人材を求めています。

1. 医師に必要な使命感、豊かな人間性、高い倫理観、コミュニケーション能力を持っている人
2. 医学・医療の進歩に対応するために必要な、幅広い基礎的学力と語学力、問題解決能力を持っている人
3. 知的探究心が強く、とくに生命科学に対して深い関心を持っている人

高等学校において、論理的思考力を身につけ、筋道の立った文章を書き、自然科学の基礎知識と思考方法を習得しておくことが必要です。入学後の学修のため、高等学校において修得していることが望まれる教科は、国語、外国語、地理歴史、公民、数学、理科です。

選抜の基本方針

・一般入試(前期日程)

5教科7科目の大学入試センター試験を課し、高等学校卒業レベルの基礎学力を評価します。個別学力試験では数学・理科2科目・英語を課し、医学を学ぶ上で基盤となる科目への理解度を評価します。また面接により、将来の医学・医療の担い手としての適性を重視します。

・推薦入試Ⅱ(大学入試センター試験を課すもの)

地域枠コースとして募集，選抜を行います。調査書・志願所信書等の書類審査と面接試験で，志望する各県の出願要件をみだし，各県が貸与する奨学金を受給し，かつ当該県内での医療に従事する強い意思を確認し，将来の医学・医療の担い手としての適性を総合的に判断します。入学後の学修のため，5教科7科目の大学入試センター試験を課し，基準点（概ね780点）以上の者から選抜します。

・私費外国人留学生特別入試

本学の定めた出願資格を満たしている者に対して，書類審査，日本留学試験（日本語，数学コース2，生物および他1科目理科）を課し，日本の高等学校卒業レベルの基礎学力を評価します。個別学力試験では数学・理科2科目・英語を課し，医学を学ぶ上で基盤となる科目への理解度を評価します。さらに面接を課し，将来の医学・医療の担い手としての適性を総合的に評価します。

・アドミッション・オフィス入試(国際バカロレア入試)

国際バカロレア資格（IB最終成績評価39/45点以上）を有し，日本語（言語Aで成績評価4以上），理科2科目および数学（所定の成績評価以上）を修得した者に対して，書類審査を行い，日本の高等学校卒業レベルの基礎学力および医学を学ぶ上で基盤となる科目への理解度を評価します。さらに面接を課し，将来の医学・医療の担い手としての適性を総合的に評価します。

・その他(編入学試験(学士入試))

本学の定めた出願資格を満たしている学士に対して，書類（TOEFL-iBT成績証明含む）審査を行い，課題作文で論理的思考能力と生命科学に対する理解度を評価します。学力試験では生物学，科学英語を課し，医学を学ぶ上で基盤となる科目への理解度を評価します。さらに面接を課し，将来の医学・医療の担い手としての適性を総合的に評価します。

医学部カリキュラムポリシー

医学部では，本学部ディプロマポリシーに掲げる学士力（人間性に富む豊かな教養，目的につながる専門性，効果的に活用できる情報力，時代と社会をリードする行動力，生涯に亘る自己実現力）を備えた医療人を育成するため，教養教育科目と専門教育科目で構成される体系的なカリキュラムを提供しています。

1年次には，外国語，リベラル・アーツ，スポーツなどの全学規模で開講される教養教育科目に加え，各学科で開講する専門基礎教育科目および専門教育科目を通じ，専門教育の基本となる知識や技術について学びます。2年次以降，各学科においてより専門性の高い専門教育科目を履修するとともに医療機関等における実習が始まり，大学教育としてのカリキュラムの成果は，国家試験の受験に十分耐え得るものとなっています。

医学部医学科カリキュラムポリシー

医師・医学研究者の育成には，科学知識と技術の修得とともに豊かな人間性の獲得が求められます。本学科では，医の倫理に徹し，科学的思考法と高度な医学的知識・技術を体得し，社会的信頼を得る医師並びに医学研究者を養成することを教育理念とします。この理念を達成するために，卒業までに身につけるべき事項についてディプロマポリシーを定め，医学教育モデル・コア・カリキュラムに提示されている教育内容を包含した6年一貫教育カリキュラムを構築しています。

人間性に富む豊かな教養【教養】

教養教育と専門教育を通して、高い倫理観と幅広い国際的な教養、豊かな人間性を身につけます。専門教育では、1年次の「医学概論」、「臨床医学入門」で医学の根本を学び、「プロフェッショナリズム」で、医師としての素養を身に付けます。2年次の「医学史」では医学を築いてきた先人に学びます。さらに、4年次での「生命倫理学」、「医事法」では、倫理的・法的観点から医師に求められる素養を獲得します。

目的につながる専門性【専門性】

専門基礎科目と専門科目の螺旋型カリキュラムにより、国際的に活躍できる医療人に必要な専門的知識と実践的能力を養います。1年次に生命科学の基礎を修得し、1年次後半～3年次に正常な人体の構造と機能、病原体や様々な病因によって引き起こされる病態、薬物反応、を学びます。4年次では、臨床医学と社会医学を学修します。4年次後半～6年次では、診療チームの一員として臨床実習を行い、医師の職業的な知識・思考法・技能・態度の基本を身につけます。

効果的に活用できる情報力【情報力】

医学的情報を収集・分析し的確に判断できる能力を養い、効果的にグローバルな情報発信ができる能力を身につけるための科目を設定しています。1年次に情報リテラシーの基礎を学修し、2年次では情報の数理解析方法を学びます。実践的な演習科目として、3年次初期に「基礎病態演習」を、4年次後半に「臨床病態演習」を履修し、課題解決型能力を養います。

時代と社会をリードする行動力【行動力】

高い協調性のもとに世界に通用する専門職業人としての指導力を発揮し、医療チームの一員として責任をもった行動ができる能力を養成します。1年次では、テュートリアル方式の授業を行い、自ら問題点を見つけて学習する習慣を身につけます。1・2年次に外国語科目を履修し、外国語によるコミュニケーション力を獲得します。1～3年次に行う地域医療体験実習では、地域の医療現場を理解するとともに、地域住民や医療従事者とのコミュニケーションを通して医療人としての社会性を育てます。

生涯に亘る自己実現力【自己実現力】

医学・医療の進歩、グローバルな社会のニーズに対応して絶えず医療の質の向上に努め、生涯にわたり自己の成長を追求できる医療人を育成します。1年次早期に医療・福祉の現場を自ら体験し、患者の傍らに居ること、共感的態度を学びます。3年次には、医学研究インターンシップを行い、海外を含む学内外の研究室での実体験を通して研究マインドを涵養します。6年次では、6年間の医学教育の仕上げとして選択制臨床実習による総合的な自己研鑽を行います。

岡山大学医学部ディプロマポリシー

- ・ **人間性に富む豊かな教養【教養】**

医療人として自然や社会の多様な問題に対して関心を持ち、人間性や倫理観に裏打ちされた豊かで国際的な教養を身につけている。

- ・ **目的につながる専門性【専門性】**

健康・医療に関する専門的学識と時代を担う技術を身につけ、国際社会に貢献できる。

- ・ **効果的に活用できる情報力【情報力】**

必要に応じて自ら健康・医療に関する情報を収集・分析し、効果的に活用し、グローバルな情報発信ができる。

- ・ **時代と社会をリードする行動力【行動力】**

国際的に活躍できる医療人としてのコミュニケーション能力を有し、医療チームの一員として責任を持った行動ができる。

- ・ **生涯に亘る自己実現力【自己実現力】**

自立した世界に通用する医療人として絶えず医療の質の向上に努め、生涯に亘り自己の成長を追求できる。

医学部医学科ディプロマポリシー

- ・ **人間性に富む豊かな教養【教養】**

医療人としての高い倫理観と幅広い国際的な教養、豊かな人間性を身につけている。

- ・ **目的につながる専門性【専門性】**

国際的に活躍できる医療人として必要な専門的知識と実践的能力を身につけている。

- ・ **効果的に活用できる情報力【情報力】**

医学的情報を収集・分析し、的確な判断を行い、効果的にグローバルな情報発信ができる。

- ・ **時代と社会をリードする行動力【行動力】**

高い協調性のもとに世界に通用する専門職業人としての指導力を発揮し、医療チームの一員として責任をもった行動ができる。

- ・ **生涯に亘る自己実現力【自己実現力】**

医学・医療の進歩、グローバルな社会のニーズに対応して絶えず医療の質の向上に努め、生涯に亘り自己の成長を追求できる。

医学部医学科コンピテンシー

学科 DP	学科 DP 要素	コンピテンシー	コンピテンシーの内容説明	学科 DP との関連割合
教養	人間性に富む豊かな教養	多様な問題に関心を持つ力	自然や社会の多様な問題に関心を持ち、探究心を高めることができる。	20
		多角的に考える力	問題を多角的に捉え、解決に向けて多角的に考察できる。	20
		論理的に考える力	問題解決に向けて論理的に思索できる。	20
		共感できる力	様々な状況の中で他者の意図や感情を思惟できる。	40
専門性	目的につながる専門性	専門的な知識	医学生として必要な専門知識を習得している。	30
		専門的な技能	医学生として必要な専門技能を習得している。	30
		実践能力	医学生として相応しい態度で医療・研究を実践できる。	40
情報力	効果的に活用できる情報力	情報収集力	自らすすんでエビデンスに基づいた情報を収集することができる。	30
		情報分析・判断力	収集した情報を的確に分析し正しい判断をすることができる。	30
		情報活用力	情報を適切に活用することができる。	20
		情報発信力	積極的かつ効果的な情報発信ができる。	20
行動力	時代と社会をリードする行動力	コミュニケーション能力	他者を敬い、言語的または非言語的な意思疎通が円滑にできる。	30
		チームの中で責任を果たす力	医療安全を意識し、チームが機能するために責任ある行動ができる。	20
		問題を発見・解決する力	自ら問題点を発見し、解決に向けて行動することができる。	20
		倫理的に行動する力	倫理的に行動することができる。	30
自己実現力	生涯に亘る自己実現力	セルフマネジメント力	自立した個人として自らを俯瞰的に見ることができる。	30
		日常的な自己研鑽力	常に謙虚な姿勢で自らを省察し、自分自身の向上に努めることができる。	30
		共に学ぶ力	他者と共に、教え・学び合うことができる。	30
		未来を設計する力	社会のニーズを把握し、自分や社会の未来に向けた計画ができる。	10